

令和3年度第4回逗子市総合計画審議会 会議概要

日 時：令和4年1月28日（金）19：00～

場 所：逗子市役所5階 会議室

出席者：

【委員】出石会長、磯部副会長、佐藤成人委員、藤井委員、佐藤英夫委員、
小川委員、三原委員、田宮委員、藤江委員、池谷委員、佐野委員
中畠委員

【事務局】福井経営企画部長、福本経営企画部担当部長、仁科経営企画部参事、四宮係長、
柿沼主事補、渡邊主事補（記録）

欠席者：3人（山口委員、星山委員、志村委員）

傍聴者：0人

配付資料：

次第

資料10 逗子市総合計画基本構想改定及び中期実施計画策定方針（案）に反映する
意見等

資料11 資料10を反映させた方針（案）の修正案

資料12 答申案

資料13 分野別意見交換会「これからの逗子のまちについて話し合おう」

議事概要：

1 開会

2. 策定方針（案）について【意見交換】

- 資料10、資料11、資料12の説明の後、答申をまとめるにあたり、次の意見・質疑
応答があった。

■答申（案）付言1について

・後段の1の部分「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の部分

資料10で報告のあった、第3回審議会のNO.5の池谷委員のご意見のところの結果だ
と思うが、総合戦略の枠組みなどに縛られず逗子市のアイデンティティを発揮するこ
ととあったことが、もう少し強く出た文言にしてもいいのではないかという印象を持
った。

⇒前回の審議の中で「枠組み等に縛られ過ぎないように気を付けて改定すべき」「市のアイデンティティをきちんと発揮できれば一本化でもよい」と審議委員からあったので、審議結果としてまとめた。

事務局の方でこの案を考えるにあたって、総合戦略については枠組みというのか、一定の型があるということの説明した。例えば数値目標を立てるとか、基本的方向性の下に具体的な取り組みを載せるとか。その型の中に何をを入れていくのが大切だと考えており、その中に入れていくもので逗子の特徴を出すという風にした方がよろしいかと思ひ、NO.4の意見の下から2行目の「逗子市の自律性を損なわれないよう」という部分の言葉とNO.5の意見の「逗子市の個性や魅力を引き出す」こちらの言葉を借りて、今の文章を組み立てた。

アイデンティティという言葉は自律性、魅力や個性という言葉に置き換えて作成したものである。

・一つアイディアとして、1番のところ「まち・ひと・しごとの総合戦略を一体化する・・・」の逗子市の次に「総合計画」という言葉を入れて、「逗子市の総合計画の自律性を損なうことなく、逗子市の個性や魅力を引き出すよう工夫すること」とするとはっきりするのではないか。

⇒最初の方には入れる。「個性や魅力を」の前にもう一度「総合計画」を入れるかどうかについては、会長・副会長事務局に一任いただく。

■答申（案）付言2について

・「歳入を勘案した上で」が強調されすぎているような気がする。歳入を勘案しすぎると何もできなくなる恐れがある。「歳入を定量的に評価して」という形をぜひ入れてほしい。

・これはまさに「出づるを量りて入るを制す」という委員の意見で入れた意見だが、これは逆の発想で、歳入に縛られると何も事業ができない。歳入を努力して持ってきたうえで、量出制入という考え方は財政上ある。この文章は、歳入は「ない袖は振れないではなく」、「歳入を勘案して」の「勘案」というのは両方の意味を含んでいると思う。2番のところは、まち・ひと・しごととはつなげていないので、総合計画のもとに事業を実施していくにあたってのこと。実施計画の中身を実施していくには、創意工夫が必要だよと。その中身の歳入の部分は工夫しなさいよというくらいの意味だと考える。

・「歳入を勘案し」となると「出づるを制する」の方にばかり行く。本当は国や県から

いかにお金を持ってくるかということが「歳入を勘案し」に含まれている。捉え方は様々あるが、このままでいいと思う。

⇒「歳入を勘案する」のままかもう少し具体的な文章にするか会長・副会長事務局に一任していただく。

【まとめ】

以上2点について

・付言1と2の整理については、会長・副会長事務局に一任いただき、最終的な答申とすることとなった。

3. その他

○ 基礎調査について

1月7日に締め切り、現在集計中。結果がまとまったらご報告の予定。

○ 総計審の任期について

令和4年3月31日をもって総合計画審議会委員の任期が終了となるが、皆様に再任をお願いしたい。後日、再任の依頼を送付する。

○ 今後の予定について

次回の審議は4月以降開催の予定。出石会長と磯部副会長と事務局で、これまでの審議を基に答申をまとめる。

4. 閉会